「Garnet Girls from Japan! Congratulations!」

米国カリフォルニア州アナハイム市で今年2月に行われたチアダンスの国際大会「2019 USA Collegiate Championships」の表彰式。ソングリーディング部（Garnet Girls＝ガーネットガールズ）のメンバー20人は、出場した「Pom 4-Year College」部門で１位とアナウンスされると、ステージ上で感情を抑えきれなかった。喜びと達成感から、仲間と抱き合い、自然と目から涙がつたう。国際大会での優勝は２年ぶりの快挙となった。

表紙の人

Garnet Girls ダンスで会場魅了

迫力と一体感、

笑顔で優勝を喜ぶGarnet Girls（右手前は村田麻里コーチ）

国際大会優勝

ソングリーディング部

振付・演技構成などを担当する同部の村田麻里コーチによると、大会は米国西海岸を中心とした地域から選抜された大学と、日本から招待された大学などで競われた。「Pom 4-Year College」部門とは、楕円形の「ポンポン」を使ったチアダンスの４年制大学の部門の意味。ガーネットガールズの国際大会優勝は、2017年１月の別の国際大会以来。現在のメンバーでは初めての国際大会優勝となった。

見せ場も普段通りの演技

アップテンポな楽曲がミックスされた音楽をBGMとした２分間の演技の中で、片足を軸にもう片方の足を伸縮させて回転しながら全員がそろって踊る「フェッテ」や、1回転した後にジャンプして空中で180度以上開脚する「シェネトータッチ」などの見せ場があり、「普段通り、練習通りに決められた満足感がありました」と部長の黛海理さん（総合政策３）。

□ ソングリーディング

人を肩の上に乗せるチアリーディングのようなアクロバットな動きは禁止されている。ポンポンダンス、ヒップホップ、ジャズ、バレエなど、さまざまな踊りの要素を含み、２分間の演技の構成や技のスキル、創造性、全体の印象のほか、ショーマンシップ（表情や情熱）なども採点の対象となる。

普段通りの力を出すことがまず難しい。加えて「床はつるつるした感じで、そこで初めての演技。緊張しました」（副部長の加藤美佐子さん＝文３）。異なる国、いつもと違う環境ー。緊張するなというほうが確かに酷だろう。

しかし、「本場のアメリカで認められたい」（黛さん）と、ステージに立ったガーネットガールズは躍動した。技に集中していると、観衆の反応が分からないことが多いが、フェッテのときは分かった。それだけ見ている人の歓声や反応が大きかったということだ。加藤さんは「日本とアメリカとでは（観衆の）反応が違う。歓声や派手なリアクションは刺激になりました」と振り返る。

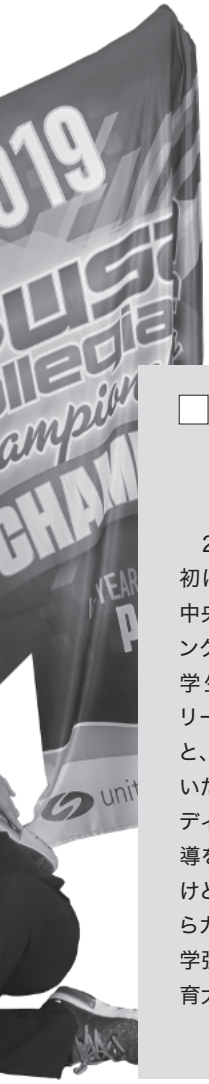
ソングリーディングの魅力

黛さんは「迫力とメンバーの一体感を見てほしい。動きをそろえることなど、どこまで行っても完ぺきということはなく、演技にさらに磨きをかけ

たい」と、どこまでも前向きだ。村田コーチも「アメリカの舞台でも物怖じせず、ガーネットガールズらしい演技をしてくれました。セミファイナルまでは緊張感もありましたが、（決勝で）ラインダンスを輪になって回りながら披露すると、会場が大きくわいた。構成力でも高得点をもらえました」と、教え子たちを褒めた。

一緒に踊っている周りのメンバーの存在を感じ、動きや呼吸、気持ちがそろっているなと感じられたとき。そんなとき、踊る側も見る側も最高の瞬間を味わえる。

「ただ一緒に踊っているわけではありません。そんなときは本当に楽しいんです」。黛さんはソングリーディングの魅力をそんなふうにたとえている。



中央大学 ソングリーディング部「Garnet Girls」

2008年創部。部員数39人。当初はサークル活動から始まった。中央大学附属高校ソングリーディング部に所属し、中大に進学した学生たちが「高校だけでソングリーディングを終わりたくない」と、当時附属高校でコーチをしていた村田麻里・現中大ソングリーディング部コーチに、大学での指導を依頼したことが発足のきっかけという。村田コーチの誕生石からガーネットと名付けた。他の大学強豪校は桜美林大、日本女子体育大など。

Garnet Girls

★ 優勝メンバーひとこと集 ★

★ 黛 海理さん（部長、総合政策３）

「部長になってから結果が出ず、悔しい思いをしてきました。１位と分かった瞬間、自然に涙があふれ、今まで頑張ってきて本当によかったと思いました」

★ 加藤 美佐子さん（副部長、文３）

「次の大会で引退を決めているので、次も優勝します。副部長として、部長を支えるのはもちろん、常に周りを見て行動するよう心掛けてきました」

★ 相澤 麻里亜さん（商３）

「補欠の経験もメンバーの経験もあるので、その経験を生かして他のメンバーの気持ちに寄り添うことを大切にしています。皆との絆が深まるのがソングリーディングの魅力です」

★ 冨山 友紀乃さん（経済３）

「チアダンスの基礎となるバレエの係を担いました。チームの中で動く力を発揮して、将来に生かしたいです」

★ 大野 紗季さん（法３）

「１カ月前の大会で悔しい結果となり、その思いを胸に頑張ってきました。私たちの学年は海外の大会で初めての優勝で本当にうれしい」

★ 又木 優和さん（文３）

「一つの目標に向かって全員が突き進めるのがソングリーディングの魅力。『One for all, All for one』という言葉がすべてを示しています」

★ 山田 桃子さん（商３）

「チームで踊り、周りの人と呼吸が合うと、（動きも気持ちも）そろっているのが分かり、より楽しくなります」

★ 福岡 美咲さん（商３）

「ホテルのカーペットで練習するなど、日本より練習環境が…。でも国外の大会での優勝は喜びが何十倍も大きかったです」

★ 庄司 遥さん（経済３）

「去年のアメリカでの大会は２位だったので、今年は１位が取れてよかった。皆のダンススキルを上げるため、得意分野を生かして基礎練習に工夫をしています」

★ 小林 久瑠美さん（経済３）

「メンバーに入れなかったり、たくさん苦しい思いをしてきたので、同じように苦しんでいるメンバーに寄り添える存在でいたいと思っています」

★ 小柳 ゆず香さん（法３）

「（優勝が分かった瞬間は）鳥肌と震えが止まりませんでした。うれしすぎて付けまつげが取れるほど泣いたことが思い出として残っています」

★ 辻 悠里さん（総合政策３）

「一見華やかな競技ですが、動きを合わせるのが難しかったり、大変なこともたくさんあります。それをチームワークで乗り越えることも魅力の一つだと思います」

★ 本多 愛さん（商３）

「大会が続き、体力的にも精神的にも練習がつらい日々でした。今までに経験したことのないくらいの感動を味わえました」

★ 髙橋 和さん（文３）

「小さいころからアメリカの大会に出て優勝するのが夢で、やっと叶えられて感無量でした。（ソングリーディングは）見ている人も踊っている人も元気に、力をもらえるスポーツです」

★ 塚原 汐音さん（法２）

「最高の笑顔のメンバーと抱き合ったのが今でも夢のようで、一生忘れられません。努力でつかめる夢もあるんだなと思いました」

★ 竹中 海香さん（商２）

「練習メニューがハードで、常に体のどこかが痛い状態でチアと向き合っていたのは体力的にも精神的にも苦しかった。学内でももっとソングリーディングを知ってもらいたい！」

★ 中山 結衣さん（法２）

「他のチームの人もたくさんの拍手や、（祝福の）声をかけてくれて、アメリカの“チアスピリット”を感じました。Garnet Girlsをもっと広めたい」

★ 川本 杏莉さん（法２）

「結果発表のとき、どのチームもどんな結果でも喜び合い、そしてライバルでも『おめでとう』と言い合えて、とても明るい雰囲気で楽しかったです」

★ 荻野 あすかさん（商２）

「ひざのけがで舞台には立てませんでしたが、一緒に頑張ってきたメンバーと優勝でき、良い経験ができました。次こそあの舞台に自分も立ちたい」

★ 織茂 清香さん（総合政策２）

「ダンスパートをよりレベルアップできるよう、練習内容を工夫していきたい。今後のすべての大会で優勝したい」